

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392400160		
法人名	株式会社 ユニマツト・リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	半田ケアセンターそよ風 (B)		
所在地	愛知県半田市星崎町2-39-2		
自己評価作成日	平成30年1月19日	評価結果市町村受理日	平成30年4月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;UgyosyoCd=2392400160-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;UgyosyoCd=2392400160-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	平成30年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者様が楽しみのある生活を過ごして頂けるように、外出、外食等によって全員参加で取り組んでいます。またご入居者様の現存能力を活かして介護に取り組んでいます。健康維持のために体操や口腔ケア(訪問歯科)、医療(往診、受診)と訪問看護の連携を実施しています。お手伝いや料理作りを行いグループホーム生活に生きがいを感じるように行っています。他者とのふれあいでデイサービスのレクリエーションや年1回の夏祭り、盆踊り、地域の祭礼に参加しています。誕生日会は本人が食べたい物を取り入れて楽しく催しを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くに雁宿公園があり、閑静な住宅地の中に事業所がある。1階にデイサービスが併設され、2階に2ユニットのグループホームがある。事務所を中心に左右対称にユニットが並んでいる。南向きのベランダでは、プランター栽培をしたり洗濯を干したりして生活の共用ベランダとなっている。管理者や職員は各フロアごとの目標に沿って、協力し合い入居者のケアサービスに努めている。入居者は、併設のデイサービスで、デイサービス利用者と共に、リクレーションや書道、カラオケなどの余暇活動に参加するなどして、健康維持や楽しみある生活支援につなげている。入居者は伝統の山車祭りを見たり四季折々の花見に出かけたり、公園のサロンでお茶を楽しんだりしている。明るくゆったりとしたリビングで、ゲームをしたりテレビを観たり、おしゃべりしながら穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はあるが会社独自のものであまり地域に関係しているものでなくできていないのでこれから作っていく感じである。	各フロアごとに目標を掲示し入居者が心身ともに健やかに過ごせるよう職員一人ひとりが入居者に寄り添い、笑顔で感謝の気持ちを持って接している。職員同志のコミュニケーションを大切に、目標を共有して日々のケアに繋げている。	法人の理念「共感・共創・共生」の持つ意味について職員全員で話し合い、地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念の作成を期待したい。また、職員全員で理念をふり返り共有する機会を設け、理念の共有と浸透が図れるような工夫を望みたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	盆踊りや朝市、施設行事に地域との交流をしている。	民生委員や散歩時に掲示板で地域の情報を得ている。盆踊りや山車祭りに参加したり、朝市や憩いの家のサロンに出掛けたりしている。事業所の夏祭りには地域の方々を招待しゲームやボランティアによる催し物などを楽しんでいる。併設するデイサービスの行事に参加し、デイサービスを訪れる方と交流を深めている。高校生の体験学習や専門学校生の実習も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の行事にグループホームとはどういう活動や行事をしていることを展示している。こちらから地域へ発信していることはあまりない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で家族の意見を踏まえて改善したり実践にむけてサービスの向上に活かしている。	入居者や家族、行政の参加を得て年6回実施している。事業所の運営状況や活動内容、事故報告、感染予防対策等の報告がされ、参加者からの情報や意見、提案等が協議され、全体会議などで検討して運営に活かしている。参加できなかった家族には、各フロア新聞発送時に議事録を同封し郵送している。地域の有識者には毎回案内は出しているが出席はない現状である。	地域の情報交換や、行事運営等について協議したり、事業所への要望を聴取して運営に反映させるためにも、地域の有識者が参加して頂けるように積極的な働きかけを願いたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や事故等で報告して協力関係を築いている。	運営推進会議に市担当者が毎回参加し、情報やアドバイスを得ている。担当窓口には介護保険更新手続きや申請の代行業務、サービスの取り組みなどを伝え、情報交換をしながら良好な協力関係を築いている。また、担当者から地域の困難事例などの相談や照会を受け、より良い業務運営ができるように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通じて管理者の思いを共有し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束のマニュアルを通して意識を高め、スピーチロックに配慮したり、束縛感のない環境づくりに努めている。併設のデイサービスと合同で研修を行い、拘束に対する話し合いを重ね、職員間で認識の共有を図っている。日頃から、一人ひとりのその日の気分や状態をキャッチし、職員の見守りの中で開放的で自由な暮らしができるような支援を心掛けている。建物の構造上、安全のために各ユニットの出入り口は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通じて管理者の思いを共有し虐待をしないケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については利用者様の中で該当される方を通じて理解する様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が主に行っているため注意する点があれば職員に周知を促している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族の意見、要望を職員に報告をして反映する様にしている。	入居者からは日々の関わりの中から思いを聞き、申し送りノートに記録し職員間で共有しケアにつなげている。家族からは運営推進会議や面会時、家族会などで意見や要望を聞き、ケアや業務改善に役立てている。意見箱の設置をして意見を述べやすい環境を整えたり、毎月各ユニットごとの新聞を発行し家族に安心を届けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見を鑑みて提案をしている。	日々の業務の中や申し送り時、ユニット会議やグループホーム会議、全体会議などで職員からの意見や提案を聞き、見直しや改善に向けて話し合い運営に反映させている。人事評価システムがあり管理者が個人面談を実施し、要望、意見、悩みなどを聞く機会を設け、運営に反映するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員は厳しい状況であるが職員は頑張っていることは理解されている。環境づくりしてほしい要望がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修を行っている。また法人外での研修は掲示してあれば参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネを持っている方は交流する機会があるが職員で自己にて参加する場合以外はあまりない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所する前の情報により本人が安心して暮らせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所する前に家族の要望を踏まえて暮らせるようにして関係づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援で問題が出れば家族と相談し改善していくように取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共にやっているが時間がかかってしまうと一方的になってしむこともあるので築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子を細目に伝え職員のみならず家族と共に支援していくように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	途切れてしまう事があるので丁寧に言って再来所してもらうように努めている。	入居前の情報から馴染みの人や場所を把握している。友人との面会には、旧交を深め継続に繋がるよう配慮している。散歩や買い物で行き交う人との挨拶や外食先などは新しい馴染みの人や場所となっている。家族とお墓参りや外食、馴染みの美容院などに出掛けている。昔の記憶を辿りながらドライブをしたりして支援に活かしている。その人が出来る家事仕事などの継続支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置や飲み物等の提供により一緒にいる場づくりして交流できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても状況に応じて相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく本人の意向に沿うようにしている。また状況により限定してしまう事がある。	基本的に傾聴に努め、それぞれの入居者が一番リラックス出来る入浴時や夜の落ち着いた時間帯の会話の中から希望や意向を把握するようにしている。思いの表出の少ない方は、表情をくみ取ったり日々のケアの中で思いを把握するよう努め、ケアにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から昔の状況を聞きケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人に合った過ごし方を提供している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議で話し合い、ケア方法の見直しを行いご家族の要望も反映する様にしている。	担当者が入居者や家族に意向や希望を聞いたり、日常の様子を記載した個別記録を基に、毎月のカンファレンスで問題や課題について話し合い情報交換をしている。医師や看護師など関係者の意見や家族の意向を踏まえながら現状に即した介護計画を作成し、3か月ごとに介護計画の見直しをしている。状態が変化した時は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段と違った様子や行動があった場合は詳細に記録し他の職員と共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方にあったサービス提供の為に今まで行っていなかった支援も検討する場合がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	朝市や桜や春祭り、盆踊り等の見に行ったりして楽しんだりする。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が希望するかかりつけ医に受診や往診によって医療を受けられるようにしている。	入居時にかかりつけ医か提携医の希望を聞いている。内科は月1回、歯科は随時の往診が行われている。看護師や訪問看護師とも連携を取り家族と話し合いながら健康管理に努めている。薬管理は毎月薬局がカレンダー方式で配薬を行っている。身体状況に変化があった時や緊急時は、24時間体制で医師や看護師、訪問看護師、協力医療機関による連携体制のもと、速やかで適切な医療が受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状況で気になることがあれば看護師、医師、訪問看護師に伝え指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は病院と連携して情報を流し早く退院できるように連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期をグループホームで迎えるときは家族に相談して医師と連決して対応できるようにしている。	重度化や終末期、看取りについて入居時に意向や希望を確認している。重度化する可能性がある場合には、早めに家族に報告し、状況を説明して再確認している。緊急連絡網を利用して医師や看護師、訪問看護師その他関係機関と話し合いながら、入居者にとって最善の援助ができるように努めている。また職員が看取りに向けてチームで取り組むために勉強会も行われている。管理者によるメンタルケアも充実している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当やAEDの研修を行った。職員により救命救急講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災や地震の避難訓練を年2回している。	年2回消防署員立会いの下、昼間・夜間想定で火災や地震の避難訓練を実施している。消防署から指摘された個所や課題については、運営推進会議やカンファレンスで話し合い改善に向けた取り組みを行っている。3日分の水や食料、防災グッズの備蓄品が用意されている。緊急時に対応するためAEDの研修も行われている。地域との協力関係構築には至っていない。	想定外の災害が起こっている昨今であるので、地域との連携の中で、災害時の協力を依頼したり、事業所として地域に出来ることも提示しながら地域相互の関係をより深めていくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに気を付けている。出来るだけわかりやすく生活を過ごしていけるように心掛けている。	一人ひとりのこれまでの生き方を尊重し個々の生活スタイルを守り、より良く過ごせるよう配慮している。職員は、日々のケアの中で、馴れ馴れしさや特に雑になりがちな言葉使いなどに配慮し、「いつ誰が聞いても不快にならない言葉使いや対応」をするよう確認し合い支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の様々な場面で自己決定できるように促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく本人のペースを大切にしているがたまに職員の都合で決まってしまう事がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洗顔や着替えを行いその人らしいように整えている。また2か月に移動美容院が見えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事で美味しく頂けるようにしている。また状況によって形態を変えて摂取できるようにしている。後片付けでお手伝いできる方はお願いしている。	毎日の食事が楽しみになるよう栄養士による季節の食材を取り入れた献立を基に、各ユニットで調理方法や量、好み、アレルギーなど考慮し、調理している。後片付けはその人の能力に合わせて職員と一緒にやっている。希望を聞いて外食をする機会を設けたり、おせちや節分、雛祭りなどの行事食、お好み焼き、冷菓パーティーなどを計画して職員と一緒に作って楽しんでいる。職員は、喫食状況や雰囲気などに配慮しながら見守りや食事介助をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の記録し各自の状況を踏まえて摂取できるに健康管理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしている。また定期的に訪問歯科がきて診て頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なかなかできていないようである。今後の課題である。	座位での排泄支援に努めている。排泄チェック表を参考に一人ひとりに寄り添いちょっとしたしぐさを見逃さずトイレ誘導したり、声かけやタイミングなどを工夫して、不快なく排泄が出来るよう支援をしている。夜間も、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、見守りと誘導を行っている。便秘予防では、水分や食べ物を工夫して状態に応じて看護師や医師と相談して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックをしていて続かないように食べ物や医師に相談して対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間が決まってしまうと午後入浴であるが、入浴の好きな方は毎日入れるようにしている。	各ユニットに個浴槽が2個備わっている。午後のゆったりした時間に、状態に合わせて入浴支援をしている。希望があれば毎日でも可能となっている。着替えなどを籠に入れた個々のお風呂用セットを準備している。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。湯の清潔や冬季のヒートショックに配慮して、季節を感じるゆず湯やしょうぶ湯等も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が望んでいる時間帯の寝て頂いている。休憩も本人が言われれば休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や居宅訪問薬剤師相談して薬の管理をしている。服薬支援は間違いなく服用する様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レク等で何か刺激あるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	最近なかなかできていなく機会があれば少人数で行うようにしている。	天候や体調に合わせて散歩に出掛けたりスーパーやケーキ屋、薬局で買い物したり、入居者一人ひとりの希望に添った支援に努めている。外出レクでは、デイサービスの車を利用して彼岸花や桜、コスモスなど季節のお花見に出掛け買い物や散策をして楽しんでいる。天気の良い日にはベランダに出て外気に触れるようにしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は所持できなく施設で立て替えて支払した後で家族に請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でお話をしたい場合は行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット内で季節感がわかるように飾りつけを行っている。	事務所を中心に左右にユニットが配置されている。明るく清潔感のあるリビングには、お花のリースや絵画を飾ったり、季節の行事の写真や手作りカレンダー等を飾ってユニットごとに雰囲気の違いを出している。入居者は好きなぬり絵をしたり、新聞やチラシを見て会話をしたり、ソファに座ってビデオを見てたりしてゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になる時間を大切にしている。気の合う利用者様を隣にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の物は持って来て頂き少しでも落ち着ける空間を作っている。	居室には、壁面収納の大きなクローゼットや棚が備え付けられ、空間を広く使えるよう工夫されている。入居者は、使い慣れた筆筒やテーブル、ソファなどを持ち込み、好みのものを飾って安心して落ち着けるスペースを確保している。ベット以外に部屋にカーペットを敷き布団を利用する入居者もいて、それぞれの生活スタイルで居室をコーディネートしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごして頂けるような環境づくりを心掛けご本人が理解しやすいように声掛けをしている。手すりを利用して立位がしっかりとる様に練習している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392400160		
法人名	株式会社 ユニマツ・リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	半田ケアセンターそよ風 (A)		
所在地	愛知県半田市星崎町2-39-2		
自己評価作成日	平成30年1月19日	評価結果市町村受理日	平成30年4月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	平成30年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者様が楽しみのある生活を過ごして頂けるように、少人数の外出や散歩を行いまたレクリエーションを積極的に取り組んでいます。またご入居者様の現存能力をかして介護に取り組んでいます。健康維持のために体操や口腔ケア(訪問歯科の連携)、医療(往診、受診)と訪問看護の連携を実施しています。他者とのふれあいでデイサービスのレクリエーションや年1回の夏祭りや盆踊り、地域の祭りに参加しています。意欲がわくように表形式で示し行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くに雁宿公園があり、閑静な住宅地の中に事業所がある。1階にデイサービスが併設され、2階に2ユニットのグループホームがある。事務所を中心に左右対称にユニットが並んでいる。南向きのベランダでは、プランター栽培をしたり洗濯を干したりして生活の共用ベランダとなっている。管理者や職員は各フロアごとの目標に沿って、協力し合い入居者のケアサービスに努めている。入居者は、併設のデイサービスで、デイサービス利用者と共に、リクレーションや書道、カラオケなどの余暇活動に参加するなどして、健康維持や楽しみある生活支援につなげている。入居者は伝統の山車祭りを見たり四季折々の花見に出かけたり、公園のサロンでお茶を楽しんだりしている。明るくゆったりとしたリビングで、ゲームをしたりテレビを観たり、おしゃべりしながら穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はあるが会社独自のものであまり地域に関係しているものでなくできていないのでこれから作っていく感じである。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	盆踊りや朝市、施設行事に地域との交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の行事にグループホームとはどういう活動や行事をしていることを展示している。こちらから地域へ発信していることはあまりない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で家族の意見を踏まえて改善したり実践にむけてサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や事故等で報告して協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通じて管理者の思いを共有し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通じて管理者の思いを共有し虐待をしないケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については利用者様の中で該当される方を通じて理解する様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が主に行っているため注意する点があれば職員に周知を促している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族の意見、要望を職員に報告をして反映する様にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見を鑑みて提案をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員は厳しい状況であるが職員は頑張っていることは理解されている。環境づくりしてほしい要望がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修を行っている。また法人外での研修は掲示してあれば参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネを持っている方は交流する機会があるが職員で自己にて参加する場合以外はあまりない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所する前の情報により本人が安心して暮らせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所する前に家族の要望を踏まえて暮らせるようにして関係づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援で問題が出れば家族と相談し改善していくように取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共にやっているが時間がかかってしまうと一方的になってしまうこともあるので築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子を細目に伝え職員のみならず家族と共に支援していくように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	途切れてしまう事があるので丁寧に言って再来所してもらうように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置や飲み物等の提供により一緒にいる場づくりして交流できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても状況に応じて相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく本人の意向に沿うようにしている。また状況により限定してしまう事がある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から昔の状況を聞きケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人に合った過ごし方を提供している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議で話し合い、ケア方法の見直しを行いご家族の要望も反映する様にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段と違った様子や行動があった場合は詳細に記録し他の職員と共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方にあったサービス提供の為に今まで行っていなかった支援も検討する場面がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	朝市や桜や春祭り、盆踊り等の見に行ったりして楽しんだりする。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が希望するかかりつけ医に受診や往診によって医療を受けられるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状況で気になることがあれば看護師、医師、訪問看護師に伝え指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は病院と連携して情報を流し早く退院できるように連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期をグループホームで迎えるときは家族に相談して医師と連決して対応できるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当やAEDの研修を行った。職員により救命救急講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災や地震の避難訓練を年2回している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに気を付けている。出来るだけわかりやすく生活を過ごしていけるように心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の様々な場面で自己決定できるように促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく本人のペースを大切にしているがたまに職員の都合で決まってしまう事がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洗顔や着替えを行いその人らしいように整えている。また2か月に移動美容院が見えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事で美味しく頂けるようにしている。また状況によって形態を変えて摂取できるようにしている。後片付けでお手伝いできる方はお願いしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の記録し各自の状況を踏まえて摂取できるに健康管理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしている。また定期的に訪問歯科がきて診て頂いている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なかなかできていないようである。今後の課題である。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックをしていて続かないように食べ物や医師に相談して対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間が決まってしまうと午後入浴であるが、入浴の好きな方は毎日入れるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が望んでいる時間帯の寝て頂いている。休憩も本人が言われれば休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や居宅訪問薬剤師相談して薬の管理をしている。服薬支援は間違いなく服用する様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レク等で何か刺激あるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	最近なかなかできていなく機会があれば少人数で行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は所持できなく施設で立て替えて支払した後で家族に請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でお話をしたい場合は行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット内で季節感がわかるように飾りつけを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になる時間を大切にしている。気の合う利用者様を隣にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の物は持って来て頂き少しでも落ち着ける空間を作っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごして頂けるような環境づくりを心掛けご本人が理解しやすいように声掛けをしている。手すりを利用して立位がしっかりする様に練習している。		